

令和5年4月13日

2022年度学校関係者評価委員会報告書

学校法人 近畿医療学園 近畿医療専門学校
自己評価委員会・学校関係者評価委員会

記

1. 学校関係者評価委員

亀井 一郎 (地域役員)
牧 良平 (卒業生)
天願 航 (卒業生)
川越 皓亮 (卒業生)

(事務局)

上野 雅洋 (近畿医療専門学校 副校長)
藤原 光 (近畿医療専門学校 教務部長)
坂本 博 (近畿医療専門学校 柔道整復学科長)
平口 昌幹 (近畿医療専門学校 鍼灸学科学科長)
西堀 健司 (近畿医療専門学校 事務長)
小林 栄美 (近畿医療専門学校 専科教員)
川崎 新也 (近畿医療専門学校 専科教員)
西川 美智子 (近畿医療専門学校 学生課 書記)

2. 学校関係者評価委員の開催状況

開催日： 令和5年3月15日

開催場所： 近畿医療専門学校 6F 理事会室

3. 学校関係者評価委員会報告

別紙の通り

以上

別表

I 実施方法

2022年度末に実施した自己評価報告書をもとに、項目ごとの自己評価、課題、改善策について説明をした後、学校関係者評価委員の方々のご意見をいただき、意見交換、質疑応答、自己評価の妥当性、を取りまとめる。

評価結果は今後の教育活動や学生指導等の学校運営の改善に生かし、教育水準の向上に努めるとともにホームページ上に公表する。

II 各評価項目について

項目	評価・意見
教育理念・目標	自己評価： 適正である 社会貢献・人材育成・奉仕の精神を基にした教育理念はホームページにて適切に表現されている。オープンキャンパスでは多くの保護者に来校してもらい学校の教育理念等について説明がされている。スポーツ関係に特化している印象が強いが、美容関係や東洋医学による慢性疾患治療にも長けている。また、卒業後の即戦力人材の育成を目指した独自セミナーの開催や、業界のみならず社会のニーズに合わせた開発を試みている点は評価できる。
学校運営	自己評価： 適正である 理事会及び評議員会により運営方針や事業計画を策定が開催している。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会など、職業実践専門課程や修学支援制度に準じた教育内容の見直しや教育活動の報告がされている。学校の財務や委員会の議事も含め、学校のHPに掲載され公表されている。 今後も情報システムの統合や連携による効率化に加えてセキュリティ強化による運用が課題である。
教育活動	自己評価： 適正である 学生による授業評価アンケートの実施にはGoogleフォームを利用している。スマホを使用することにより学生からの声を聴きやすくする工夫を行っているのは良い。 専門分野に特化した非常勤講師を採用しており、さらなる目標の達成を目指している。 年間を通じて、専門分野の実務研修や指導力向上の教員研修、自己啓発研修や企業等が行う研修への参加による成果に期待したい。

<p>学修成果</p>	<p>自己評価： 適正である</p> <p>今年度も柔道整復科の国家試験合格率の低さが気になる。学習指導の大幅な改善を期待する。</p> <p>合格率の向上を図るため国家試験対策ユニットを設けることにより前年度までの反省とそれを踏まえた授業構成の変更などで精度を上げてきてはいるが、より一層のシステム構築が必要である。</p> <p>配布漏れやデータ収集の一助として今年度もコロナ感染対策で活用を始めた Google classroom や Google forms などコンテンツの配信や小テストを実施しており、学生個々の弱点に対してアプローチしており、今後も資格取得率 100%を目指すために、より充実したシステムの導入やコンテンツの作成などを推進していきたい。</p> <p>第1学年次からの補習並びに国家試験対策を始めたことにより基礎学力の底上げと受験テクニックの向上を図っていることについては今後期待できる。</p>
<p>学生支援</p>	<p>自己評価： 適正である</p> <p>専用の学生相談室が設置されており、スケジュール表に担当教員の名前が記載されているので学生が相談しやすい教員を選べるようにしている点や、校長への意見箱を設置しているのは信頼関係が築きやすく非常に良い。教職員に気軽に相談できる関係性や教員室を訪問しやすい環境作りを構築することで、さらなる退学率の低減並びに勉強しやすい環境づくりを目指してほしい。</p> <p>日本学生支援機構の奨学金制度、修学支援制度、学費延納制度や教育ローンの案内などを設け経済的支援体制を構築している。鍼灸学科においては教育訓練給付金の対象のため社会人が就学しやすい制度も整っている。</p> <p>卒業生や在校生が他学科の資格を取得しやすいように授業料減免制度による経済的支援を行っている。今年度も多くの学生がダブルスクールの申請を行ったのは喜ばしい。</p>
<p>教育環境</p>	<p>自己評価： 適正である</p> <p>前年度から建物の経年劣化に伴う整備を進めており、今年度は校内の床クリーニング及びワックス作業により環境美化を行った。</p> <p>学生ロビーに軽食を購入できる自動販売機を設置した点はニーズに応えていると感じる。</p> <p>また、バンコクでの人体解剖実習についてはとても良い勉強の機会を与えていると評価する。</p>

<p>学生の 受け入れ募集</p>	<p>自己評価： 適正である パンフレット及び募集要項、ホームページ、SNSなどで適正に広報活動を行っている。高校・高等専修学校へのガイダンスにおいて職業の魅力を伝えることで、オープンキャンパスへの参加しいては多くの入学者の確保に至ったが、スポーツ科学コースにおいてはさらなる周知徹底に努める必要がある。 HPよりも Instagram や Facebook の方が目に付きやすいと思う。</p>
<p>財務</p>	<p>自己評価： 適正である 学校法人会計基準に則り会計士による資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表などが適正に行われており、財務情報は職業実践専門課程に伴う情報公開を HP 上にて行っている。 財務の安定と厳密な監査を期待する。</p>
<p>法令等の遵守</p>	<p>自己評価： 適正である 法令・設置基準を遵守し適切に運営されており、学校評価ガイドラインに則り自己評価結果は HP にて公開している。 適切に運営されていると思う。今後も情報の公開を進めてほしい。</p>
<p>社会貢献・地域貢献</p>	<p>自己評価： 適正である スポーツ科学コースに設置されているラボ及びジムについては地域貢献を兼ねて一般開放しているが、路上駐車が多く地域住民の迷惑にならないか気がかりだ。 今年度は例年よりも短時間ではあったが近隣住民参加型の学園祭を開催した。今後も施術体験などを通じて地域住民に本校の資格についての理解を深めていきたい。 地域の清掃活動は月に一度程度ではあるが実施した。コロナ禍でもできる地域との連携と交流が学校の発展につながっていくとの観点で、今後は公開講座なども考慮していきたい。</p>

Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

項目	活用状況
教育理念・目標	<p>HP やパンフレットでの告知はもとより、年度初めのオリエンテーションにて学生への周知徹底を行っている。</p> <p>また保護者に対しても入学式の当日に開催される保護者会への参加を促しており、積極的に伝える機会を持つことで保護者に対しても本校の理念及び目標に対しての正しい認識を持っていただくよう心掛けている。</p> <p>また、医療人として必要な能力を育成し教養を向上させることを目的としており、教育目標の達成に向け教職員が一致団結し取り組んでいる。</p>
学校運営	<p>通常意思決定は管理職が行い、校務の調整は委員会、評議会、理事会といった意思決定プロセスが制度化されており校務運営システムは確立されている。</p> <p>また学校運営については倫理に即した行動に徹し、コンプライアンスを遵守し、学校としての社会的責任を果たしている。</p> <p>引き続き教育活動についても情報公開を行い、学校運営の客観性・透明性を心がけていきたい。</p>
教育活動	<p>学生が専門的知識や技術を持った上で、医療人として業界や職種や社会のニーズに対応できる人材教育を実践しており、各学科とも修業年限で即戦力のレベルまで達するようにしている。</p> <p>スポーツ科学コースも2年目となり、附属施設における授業は、より実践に近い形式で行われている。</p> <p>Google フォームを用いた授業アンケートは取り漏らすこと無く、より迅速なフィードバックにより、各教員が改善に努めた。</p> <p>専門分野の実務研修や指導力向上の研修に参加している。今後はスタンダードとなるインターネットの活用による学習方法に対しても、専門的な知識・技術の習得が必要となる。</p>
学修成果	<p>柔道整復学科における合格率改善のためシステムの再構築を行う。</p> <p>第3学年次においては成績下位層のみならず中間層の底上げを行うべく学力別での授業を行い、国家試験対策ユニットによる年間学習スケジュールを作成する。引き続き3限目を活用した補習を行うが、場所を選ばずに学習可能なオンデマンド教材の充実も図っていく。</p> <p>また、第1学年次から国家試験合格へ向けた授業編成を行う。</p> <p>これにより、学業不安による退学者を出さず、入学者全員を卒業させるために担任をはじめ全教職員が学生全員に目を配り、声をかけて退学率の低減を図っていく。</p>

<p>学生支援</p>	<p>今年度も感染予防による活動制限があったが、教職員による行事委員会がスポーツ大会並びに学園祭におけるルールなどの概要を立案して支援体制を敷くことで、学生主体による学友会がそれらを運営した。</p> <p>前年度より始動した学生相談室は、気軽に相談に訪れる学生が一定数いる。これにより退学防止に繋げたい。</p> <p>就職情報は全学年が学生ロビーにて自由に閲覧可能であり、就職相談者には、就職担当と学生課職員が履歴書の書き方、就職先の選択、会社訪問、面接対策などの指導を行っている。また、企業の人事担当者による学内就職セミナー等を実施している。</p> <p>地方出身者など一人暮らしの学生に対する食事情の対策は今後も課題のひとつと感じる。</p>
<p>教育環境</p>	<p>今年度は校内全ての床面のクリーニング及びワックス作業により環境美化を行った。また、学生ロビーに軽食を購入できる自動販売機を設置したことで、合間の栄養補給に役立つと感じる。</p> <p>バンコクでの人体解剖実習は今後を見据えて、より一層のインターンシップ環境の整備を進めていきたい。</p> <p>前年度同様、学生数の増加に伴い、自習室並びに実技練習ができる教室の確保が課題と感じる。</p>
<p>学生の受け入れ 募集</p>	<p>定員数に達してはいないが全体としての入学希望者数の充実は得られている。しかしながら、スポーツ科学コースにおいてはさらなる周知徹底に努める必要がある。従来のHP型よりもInstagramやFacebookに重点を置いた募集に努める。</p> <p>またスポーツ科学コースを卒業してからのイメージ戦略も大きな課題としてあげられるので、提携企業との連携を深める。</p>
<p>財務</p>	<p>財政基盤の安定化につとめ、事業計画との整合性が十分にとれた中長期計画を策定していきたい。</p>
<p>法令等の遵守</p>	<p>今後もコンプライアンスを守り、適切な情報公開に努めたい。</p>
<p>社会貢献・地域貢献</p>	<p>地域清掃活動の導入、スポーツ科学設備の一般開放による地域への貢献を行うことで、奉仕の精神を養う。</p> <p>しかしながら設備利用者の路上停車の多さについて一考を要する。</p>